

龍谷の森

-龍谷大学-

場所:滋賀県大津市

面積: 37.77ha



「龍谷の森」特設HP



龍谷の森

瀬田丘陵に位置する大学保有の里山林

日本の大学で初の「ネイチャーポジティブ宣言」の具現化を図る場所であり、本学の教職員の研究活動や学生の教育活動に活用し、多くのステークホルダーを対象にした環境教育の場としても利活用しています。



サイト概要

本サイトは、龍谷大学瀬田キャンパスに隣接する大学所有の里山です。1994年度に多目的グラウンド整備のために大学が購入しましたが、環境アセスメントで絶滅危惧種のおオタカの生息が確認され、開発を中止し、以降、教育・研究フィールドや市民向けの自然観察会、サークル活動などに展開し、2023年度に関西私立大学で初めて自然共生サイトに認定されました。

地域等との連携

龍谷大学は、台湾農業部林業及自然保育署及新竹分署、里山賽夏の3者において、龍谷の森における友好森林関係の覚書を2025年2月10日に締結しました。双方が有する里山を森林教育の拠点とし、3者の連携による教育研究や国際交流等を行い、その成果や里山精神を社会に向けて発信し、ネイチャーポジティブ宣言で掲げた自然共生社会の実現へ寄与することを目的とします。(連携事業一例)



生物多様性の状況

本サイトでは、多様な種類の動植物が見られ、植物では261種が、昆虫類では993種が標本採取されている他、18種の哺乳類、58種の鳥類、271種の菌類などが撮影されたり観察会で記録されています。過去には、里山の猛禽類であるおオタカの生息も確認されています。

活動の内容

研究エリアでは、基本的に自然の成り行きに任せ、原則として人為的な介入を行わず、設置されている森林観測タワーを用いて森内の気象観測を行ったり、森林の生産力を評価する研究を行うなど、主に調査研究のエリアとして活用されてきました。里山活動エリアでは、ササユリなどが生息している場所として、間伐や下草刈りなどの森林管理を行うほか、薪炭材採取などの限定的な利用を行って来ました。



ネイチャーポジティブに向けてのメッセージ

龍谷大学は、世界的に深刻化する生物多様性の急速な喪失を背景として、日本の大学では初めて「ネイチャーポジティブ宣言」を発出しており、「龍谷の森」をネイチャーポジティブ宣言の具現化を図る場として、様々な取り組みを実施してきました。本サイトで、地域や世界に横展開できるような優良事例を生み出すことができれば、ネイチャーポジティブ分野を先導することができ、本サイトを所有していること自体が本学の強みになると考えています。龍谷の森の魅力が多くの人を惹きつけ、より充実した教育研究活動等につながり、さらに新たな価値を創出していく。こうした好循環の実現を目指していきます。

